

■ 修士論文要旨

# ガラス産業における経営戦略

—日中企業を比較して—

Glass Industry Business Strategy  
—The Comparison between Chinese and Japanese company—

神奈川大学大学院 経営学研究科  
国際経営専攻 博士前期課程

呂 偉 傑

Lv weiJie

中国は全世界の最大のガラスを生産する国であり、中国は全世界のガラスの生産高の約30%をしめている。中国ガラス産業の規模はとても大きく、近5年間の平均成長率は16.68%、成長率はとても高く、急速に成長している。

中国の国民経済にとって、ガラス工業も中国の産業の中で一つの重要な業界で重要な位置をしめている。中国の改革開放と社会主義の建設事業の一層の発展に伴い、中国の国民経済は新しい発展の段階に入っている。情報技術産業をハイテク産業、例えば、自動車工業、不動産産業、建築業などは発展している。これらの産業の発展は、中国のガラス産業に広大な発展の空間を創造した。

日本ガラス産業においては、グローバル運営体制のもと、オペレーショナルエクセレンスの徹底的に上がる収益性向上、キャッシュの創造に努め、生産性向上、コスト削減を図り、グローバルな最適生産分業をさらに進めている。成長著しいFPD用ガラスを中心としたタイムリーな設備増加と生産性の向上、持続的な技術開発に取り組んでいる。

グローバル競争の激化、アジアの成長を背景に、市場が激しく変化し、技術革新が猛スピードで進

む現在、既存の事業を伸ばし、新たな事業を創造することは容易なことではない。今後も企業価値向上のため「高成長が続くフラットパネルディスプレイ（FPD）用ガラス事業のさらに拡大に注力すること」、「ガラス産業のグローバル体制を徹底的活用すること」、成長著しい中国、東南アジア、東欧、ロシアなどの新興市場において積極的な事業、拡大を図ること」、以上の3つを中心として戦略が日本ガラス産業の成長シナリオと考えているようである。

本論文は主に5つの部分に分け、以下は各部分の構成である。

「はじめに」では、序論、主に本論文の研究に関する背景を紹介し、論文の研究目的、本論文の構成について述べる。

第1章では、中国ガラス産業の特徴、歴史、概況について述べる。特に中国ガラス産業の発展の歴史を紹介し、板ガラスと高度加工ガラスの2つの領域から中国ガラス産業の発展の現状を考察する。

第2章では、中国の主要なガラス企業の概況および戦略経営を考察し、中国ガラス産業の優位性

と問題と弱点について考察する。すなわち、中国ガラス産業における民間企業について研究し、将来の中国ガラス産業の発展の方向および早急に解決を要する課題について議論する。

第3章では、日本ガラス産業の経営戦略、主に日本ガラス産業の発展の歴史と現状を考察し、日本ガラス企業の経営戦略、日本のガラスの産業の

優位性と問題点について考察する。最後に日本のガラス産業の将来と解決すべき課題について論ずる。

「おわりに」では、日中ガラス産業の比較、両国のガラス産業の現状と問題点について研究する。また、総括、および今後の展望について論ずる。